



串木野中学校教頭通信

# Kyo to correspondence

～当たり前のことを当たり前～

第25号

令和5年10月 5日(木)

いちき串木野市立串木野中学校教頭  
文責 長岡

## 合唱は「常」を映す鏡

「合唱」は、伴奏を除けば人間そのものが楽器のようなものです。声によって音を奏するため、合唱は歌い手の抱えている「想い」を聴衆に対して伝えやすい音楽です。

では、その合唱の本質というものを端的に表現してみましょう！合唱とは「“仲間”の大切さを痛感し、それを他者に伝えることができる最良の活動」に尽きません。中学校における学級単位の合唱というものは、日常生活そのものが如実に反映されると考えています。

さて、全学級で4月に学級目標を決めて学級生活を送っていると思います。学級目標を達成することが、合唱を行うことの1つの目的にもなります。これまでの取組はどうだったでしょうか？また、来週の本番に向けての1週間の取組はどのようにしていきたいですか？



### 合唱は仲間との「絆」を深める手段

合唱は、ひとりではできない！仲間がいるからこそ成立するのであり、仲間の大切さを実感することができます。

ここまでは昨年の通信と同じ内容です🌀今年も1年3組の自由曲にも選ばれている曲「あさがお」をしようかします。

前半に「悔しいって流す涙は たぶん今までの自分に さよならを言って歩き出すためのエールなんだ」という歌詞があります。勇気を出してチャレンジしても失敗することはたくさんあり、弱い自分に負けそうになることがあります。失敗して悔しくて、悲しくても流す涙があるからこそ前に進んでいけるのではないのでしょうか？

そして最後にある「まっすぐまっすぐ 空に伸びていく花」のように成長し、今後は「あさがお」の歌詞を思い出すと、前向きなパワーをもらえそうですね。

ここからも昨年の通信と同じ内容です🌀

学級単位で合唱という活動に取り組むのは原則として中学校だけであり、小学校や高等学校では行われません。中学生には、「なぜ合唱をするのだろう」ということを自分なりに考えた上で、ぜひ合唱を通して日常生活をともに過ごす学級の仲間のことを想う温かい心を大切にしながら、仲間との絆を一層深めてほしいです。そして、その絆を、合唱という手段を通じ、歌詞やメロディーに託して他者にも伝えてほしいと願います。



努力して  
後悔した人を見たことがない  
練習して  
下手になる人もいない  
勉強して  
馬鹿になる人もいない  
何かをして  
変わった人はいても  
何もしないで  
変わった人はいない